

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成19年9月22日

【評価実施概要】

事業所番号	4071601480
法人名	有限会社 ケイ・シー・エステート
事業所名	いちごの里 グループホーム 輝き式番館
所在地 (電話番号)	福岡県久留米市野伏間1丁目12番1号 (電話) 0942-26-0202
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成19年8月11日

【情報提供票より】(平成 19年 7月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 3月 1日
ユニット数	2 ユニット
職員数	20 人
利用定員数計	18 人
常勤	14人, 非常勤 6人, 常勤換算 16.7人

(2) 建物概要

建物形態	<input checked="" type="radio"/> 単独 / <input type="radio"/> 併設	<input checked="" type="radio"/> 新築 / <input type="radio"/> 改築
建物構造	木造	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	47,250 円	その他の経費	有
敷金	<input checked="" type="radio"/> 有 (200,000円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="radio"/> 有 (200,000円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	315 円	昼食 420 円
	夕食	525 円	おやつ 0 円
	または1日当たり		円

(4) 利用者の概要 (平成19年7月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	6 名	要介護4	3 名		
要介護5	5 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.7 歳	最低 73 歳	最高 90 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	木下病院・野伏間クリニック・大石歯科・たかむきクリニック
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

医療法人を母体とし、病院を中心に在宅、施設介護の全てを備えた法人に併設されたグループホームである。賑やかな商業地域の近くに立地し、平成15年に開設された新築のホームである。法人グループは医療と福祉サービスを一体的に提供し、地域へ貢献したいと市の介護予防事業や地域支援事業を受託し、多角的に活動を展開している。ホームは「人としてその人らしく普通に暮す」との理念を掲げ、管理者・職員とも日々サービスの向上に努めている。医療体制が整っており、終末介護の体制も整えられ、人生の最後まで安心して暮らせるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果は職員会議で報告し、回覧を行なった。改善を指摘されたことについては計画書までは作成しなかったが、運営推進委員会や家族会にも提案を行い、全職員で検討を行い改善を行なった。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	新入職員もいるため全職員が評価について理解しているとは言えない。今回の自己評価はユニット責任者が記入し、管理者が確認をして作成されており、全職員での取り組みは行なわれていない。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4)
	18年12月から2ヶ月に1回定期的に運営推進会議を開催している。地域との交流や外部評価等の提案を行い助言を得ている。また、ホームの行事などの報告や協力を呼びかけ、今後は保育園や幼稚園との交流を初め、地区行事への参加に向けて取り組みを始めている。また、法人グループで市の介護予防事業を受託しており、地域連携室の活動と共に地域や行政との連携協力を行なっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	入居者の健康状態や暮らしぶり等については、家族の面会時や電話時に報告を行ない、金銭報告は法人内の経理から定期的に郵送している。ホームや関連事業所に苦情・相談窓口を設けて面会や家族会の折に呼びかけ、意見や要望を受入れ運営への反映に努めている。しかし、職員の移動については家族には伝えられておらず、便りなども定期的には発行されていない。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の自治会や老人会には参加していないが、同じ法人グループの地域連携室が老人クラブ等の集まりで専門的な話を行い、地域との交流を図っている。しかし、ホームとしては直接地域の人々に関わる機会はなく、保育園や幼稚園との交流や地域行事に参加するよう取り組みを始めたばかりである。

2. 調査結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	住み慣れた地域社会の中で、家族や周りの人々に支えられながら「人として その人らしく 普通に暮らしていける」との独自の理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員とも理念を理解し共有しており、日々の介護の中で「その人らしい暮らしとは」と常に話し合い、職員会議等で理念を振り返り、実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会や老人会には参加していないが、同じ法人グループの地域連携室が老人クラブの集まり等で「認知症」などの専門的な話などを行って地域との交流を図っている。ホームとしては直接地域の人々と交流は行っていない。	○	運営推進会議等を通じて近隣の保育園や幼稚園、地域の行事に参加するように取り組みを始めたばかりである。今後の地域との交流が期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価は職員会議で報告し、指摘された事は全職員で検討し改善を行った。新職員もいるため全職員が評価の意義を理解しているとは言えず、今回の自己評価も全職員で取り組まれていない。	○	全職員で自己評価に取り組み、サービスの質の向上に活かす取り組みが望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地区会長、老人会長、民生委員、包括支援センター職員、家族等が参加し、2ヶ月ごとに開催している。事前に会議内容を文書で配布して参加を呼びかけ、地域との連携交流や外部評価などを提案して相談を行い、ホームの行事等の報告も行っている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	認定申請時に介護支援専門員が市役所に出向いたり、市が主催する研修などには可能な限り参加している。また同法人グループで市の介護予防事業を受託し、連携協力を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者や一部職員は外部研修を受けて理解している。家族会を利用して家族に伝え、相談時には再度説明を行っている。しかし、欠席の家族には伝わっておらず、また職員異動等で全職員が制度を理解するまでに至っていない。	○	職員会議や研修で制度についての理解を深め、パンフレット等を準備して家族にも説明を行う取り組みが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の健康状態に変化のあった時は勿論、家族の面会や電話のあった時には報告を行い、金銭報告は法人グループ内の経理から定期的に郵送している。しかし、職員の異動については家族には報告されておらず、便りも定期的には発行されていない。	○	家族には定期的に入居者の日頃の状況報告や連絡を行い、定期的な便り発行で日常の様子や職員の異動を伝える取り組みが望まれる。
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所玄関に意見箱を設置し、家族会や面会時に利用を促している。市役所にも窓口があることを伝え、関連事業所でも窓口を設けて意見や要望を受け入れ、運営反映に努めている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動に際しては、職員間で十分に申し送りを行い、新職員には管理者や介護支援専門員が引き継ぎ説明を行い、支障の出ないように取り組んでいる。入居者には状況をみて伝えるようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用に際しては性別や年齢の制限はなく、職員の休みや勤務交替にも柔軟に対応し、管理者が個別に悩みや相談に応じて働きやすい職場づくりに取り組んでいる。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	毎月の職員会議の中で、利用者の人権について話し合う時間を設け、ケアの方針や人権について職員の意思統一を図っている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人グループ内での合同の勉強会を2ヶ月に1度実施している。また県社協や市の研修会に参加し、レポートを提出して職員会議で報告したり、グループ合同の勉強会で発表し情報を共有している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県社協の研修会や法人グループ内での交流はあるものの、地域の他の同業者との交流の機会はない。</p>	○	<p>地域の同業者に対して、研修会や交流会などの機会に、ネットワーク作りや相互訪問等を働きかけ、サービスの質を高める取組が望まれる。</p>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前に施設見学に来てもらい職員と話をを行う。しかし、最近では他の施設や病院からの利用者が多く、事前に病院等へ面接に行っている。入居して間もない利用者には職員の話しかけを多くして家族に面会をお願いし、外泊をしながら馴れていただくように工夫している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員はコミュニケーションを取っているものの、重度の入居者が多く、共に支えあう関係には困難と課題がある。</p>	○	<p>重度者であれば重度者なりの、もう1歩進んだスキルを交えたコミュニケーションを図り、入居者と思いを共有できる関係づくりが望まれる。</p>
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>意思疎通が困難な利用者に対しては、表情やしぐさで意向を推し図ったり、家族と話し合いながら、また職員会議で本人の思いに添うよう話し合いを行っている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者ごとに担当を決め全職員で情報収集を行う。家族、管理者、介護支援専門員、看護師等と話し合い、センター方式を活用して6ヶ月ごとに介護計画を作成している。</p>		
19	39	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>入居者の日常の状況を観察して個人記録に記載し、職員で共有している。毎月の職員会議で介護計画の見直しや検討を行い、状況の変化時には随時介護計画の見直しを行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	経営母体が医療法人であり、訪問看護ステーションなどの医療連携体制が充実している。音楽療法などの催し物を開催、法人グループの地域連携室と協力して支援を行っている。また、家族の宿泊の要望にも随時応えている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれのかかりつけの病院へ受診しており、看護師が病院と連絡を取り合っている。眼科や歯科等は今までのかかりつけ医がおり、必要に応じて受診に同伴したり、病院の送迎を利用することもある。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時にホームの方針を説明して、家族の要望や意向を聞き取っている。終末期の際は、医師を交え再度方針の共有を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	研修発表時などは名前をイニシャルにし、「生きがい便り」も家族等の関係者のみの配布となっており、プライバシー確保に努めている。また、申し送りは入居者に聞こえないような場所で行なうなどの配慮もしている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	意思表示が困難な重度の入居者の多い中、その人らしい暮らしとは何かを模索し把握している。また、役割を持った利用者も居られるが、家族の意向も汲みいれ、利用者のペースに合わせた支援ができるように職員も考えている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食以外は法人内の業者が一括調理して配食、利用者の状態に応じたミキサー食、刻み食なども提供している。職員は利用者と同じテーブルに着き、同じ食事を摂食しながら楽しく食事ができる雰囲気作りを心掛け、食事の介助を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1階は少し大きめの浴室、2階はユニットの浴室を備えているが、定期的に入浴予定が組まれており、1週間に2回しか入浴の機会がない。その他の日は清拭で対応している。	○	週に2回と決めてしまわずに、利用者の希望や状態を汲み取り柔軟に支援されることが望まれる。週に2回の入浴は少ないように感じる。人員体制の見直しを図り、気持ちよく清潔に過ごされるような支援が望まれる。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	無理強いはず、洗濯物たたみなど一人ひとりのペースに合わせた支援をしている。気晴らしには、子犬の時から飼っている犬がおり、入居者の癒しになっている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	重度の入居者が多く、外部との交流や外出に対する必要性は認識しているものの、入居者個別に応じた対応はなされていない。近くの公園への散歩を心がけているが、外出の回数は少ない。	○	ボランティアの活用や人員体制を見直し、外部との交流を進めていただけるよう期待したい。また、職員が買い物に行く際に一緒に外出する機会としての声かけや工夫が望まれる。
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関や1階部分は開放している。日常の1,2階の移動はエレベーターを使用し、2階の階段下り口に1メートル程の高さの扉をつけ、鍵をかけている。家族会に提案して家族の了解を得た上で、転落防止、安全確保のためやむを得ず鍵をかけている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の協力を得て火災訓練を実施し、緊急時に備えた組織体制を整備している。また、水・缶詰・レトルト食品などの備蓄も行なわれている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の管理栄養士が立てた献立を法人内の業者が一括して調理している。摂取カロリーや水分摂取量などを個人記録に残し、全職員で状態を把握観察し状態に適した支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下やリビングには行事やレクリエーション時の写真を掲示し、2階のベランダには鉢植えの花が置かれ、季節を感じる飾り付けも行なうなど工夫をしている。空調は適度で気になる匂いもなく、ホームの掃除は専門の業者が定期的に行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドやたんすは備え付けのものを使用している。仏壇を持ち込まれている入居者も居られたが、使い慣れた家具や生活用品、装飾品などがあまり見られなかった。	○	家族の写真などを配置し、温かみのある居室作りの工夫が望まれる。また、転落の危険のある方のマット使用には、床にカーペットを敷くなどの検討をお願いしたい。